

令和7年度 秋季入学式 式辞

本日、島根大学大学院人間社会科学研究科修士課程2名、自然科学研究科博士前期課程9名、同博士後期課程3名の計14名の新入生をお迎えできましたことを大変喜ばしく思います。新入生の皆さま、関係者の皆さま、ご入学おめでとうございます。本学の教職員、在学生を代表しまして、皆様のご入学を心からお祝い申し上げます。

このたび入学された14名のうち1名が日本人、13名が海外からの留学生の皆さんです。留学生の皆さんには、日本を、そして数多ある大学から留学先として島根大学を選んでいただき有難うございました。入学生の皆さんが、それぞれ目指す将来に繋がるように学び、研究できますよう、本学の教職員が皆さんをしっかり支えて参ります。

島根大学は、松江キャンパスと出雲キャンパスに医学を含む自然科学系と人文社会科学系の7学部4研究科がバランスよく配置された、国立総合大学です。この度入学される皆さんが所属される研究科、研究室を含めて、地方の特色ある強みを活かした世界をリードする研究活動や、きめ細かな個別教育が行われています。大学院に入学された皆さんには、学士課程において修得された知識を基盤に、さらなる高度な専門知識や能力を身に付けてください。そして、皆さんそれぞれが興味を抱いた疑問を大切に、指導教員の指導や研究室の皆さんとの活発な議論などを通して研究を深化させ、困難を乗り越えて一つの到達点として学位論文を創り上げていってください。

一方で、先ほど述べた総合大学としての強みを活かして、専門領域を超えて、自然科学と人文社会科学の枠をも超えて、在学期間中に幅広い視野を獲得することにも努めてください。なぜ私は、そのような一見余分な努力を皆さんに勧めるのでしょうか？

まず、自らの知的好奇心や探求心に基づいて得た確かな高度専門知識・技術を、他の専門領域の知識・技術と関連付けることにより、新たな展開や価値・イノベーションが生まれます。一例として、山中伸弥先生のノーベル生理学・医学賞受賞の対象となったiPS細胞の作製につながる原動力となったお話を紹介します。山中先生はアメリカでマウスの受精卵に由来する胚性幹細胞の研究をされていましたが、帰国後就職されたある薬理学教室では、マウス管理に追われるなど苦勞されて臨床医に戻ろうと半ば決心され、研究職を辞めるきっかけとして、どうせダメだろうと応募した奈良先端科学技術大学に採用されました。ご着任後、学生を引き付けるため、受精卵を用いずに体細胞から万能細胞を作することを大きな夢として掲げられたものの、実際、実現は難しいと考えておられました。しかし、大学内での分野を超えたセミナーでその話をしたところ、終わってすぐに、植物学の先生から「山中君、難しそうに話しているけど、植物の体は万能細胞だらけだよ」と、挿し木をするとそこから根が生えて成長するのは、万能細胞が誘導されるからだと教えてもらい、「これはできる」と認識を覆され、その後の精力的な研究につながったとのこと。このように、遠く近く領域をまたぐことで、新たな展開が開けることは、枚挙にいとまがありません。私自身も、専門のヒトやマウスの発生学に本学の数理の先生方と連携して数学を応用して展開した研究が認められ、科研費の新学術領域研究「上皮管腔組織形成：管腔生物学」というプロジェクトの計画班に参画することができました。

また別の意味でも、高度専門人材は俯瞰的な視野を持つ必要があります。現代は、VUCA の時代と呼ばれています。Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の 4 つの単語の頭文字をとった造語で、新型コロナウイルスの蔓延、自然災害の増加、AI（人工知能）などテクノロジーの急速な発達、さらにウクライナ、ガザなどの世界情勢など、予測の難しい世界の現在および今後の状況を表しています。また地質学的な視点から、現代を人新世（Anthropocene）と呼ぶこともあります。これは、人類の経済活動や核実験が、地球の歴史上、小惑星の衝突などに匹敵するような甚大な変化を地球に刻み込んでいることを表わす言葉です。これらの地球的課題を、世界で連携して解決しようとする試みが、2030 年までの SDGs、持続可能な開発目標や、さらにその後のカーボンニュートラルなどの取組です。本学でも SDGs 行動指針を掲げて、教育、研究、地域貢献など多くの取組を進め、また今年度から大学が公認する活動に SDGs ユニットという称号を付与しており、これらを大学のホームページで紹介しています。

SDGs には 17 のゴールが含まれていますが、例えば、メガソーラー建設による森林伐採のような再生エネルギー開発によって生じる環境破壊など、どれか一つのゴールへ向けた活動が、実は他のゴールの達成を妨げる方向に働く事例も多くあります。多くの地域・地球レベルの課題への全体的なバランスを大切にした取り組みによって、持続可能な社会と地球環境の中で、誰一人取り残されず well-being を実現することが求められます。そのような未来を先導するため、皆さんが獲得する高度な専門知識を、領域を超えた俯瞰的な視野で位置づけ、また実社会と関連づけて展開していく必要があります。

また、テクノロジーの中でも、生成 AI は、情報を効率よく要約や整理するなどにはとても便利ですが、膨大な言語情報から、次にくる確率が高い単語をつないでいるだけなので、そもそも論理的な正誤を問うことはできません。皆さんは、その正誤を判断できる力をこれから身に着ける段階であり、またたとえ教員でも、専門外の領域について生成 AI が提供する内容については、学生と同様に、原典の情報を確認しなければ正誤の判断はできません。このように、正に日進月歩の革新が進む生成 AI との付き合い方は、これから学修、研究を進める上で、非常に重要であり、かつ十分な注意が必要です。

島根には、古代出雲、松江城・茶の湯、和菓子をはじめ日本古来の伝統が今に息づいています。そして夕陽百選の宍道湖をはじめとする豊かな自然、新鮮で美味しい食べ物に恵まれています。ちょうどこの秋始まったNHKの朝の連続ドラマ「ばけばけ」は、島根に残るそのような古き良き日本に魅せられ、それを世界に紹介したラフカディオ・ハーン小泉八雲とその妻せつをモデルとしています。

そのような文化的で健康的な環境のもと、最先端の科学を俯瞰的に位置づけた豊かな学びができることは、日本の中でも島根大学で学ばれる大きなメリットです。そのメリットも存分に活かしながら、未来を見据え、地域から世界に至るまで幅広い視野を持ってじっくり学び、また、友人や教職員等との交流等、充実した学生生活を送られることを祈念しまして、入学式の式辞とします。

令和 7 年 10 月 7 日
国立大学法人島根大学
学長 大谷 浩